

## 歴史文化保存展示施設の展示の考え方・内容について (展示部会)

作成：令和 3 年 4 月 19 日

トータルメディア開発研究所

### 1 常設展示の考え方・内容について

別紙(案)のとおり

### 2 主な意見について

#### (1) 展示室のあり方

- ア 常設展示室ではスタンダードな通史展示を行うのが良い。
- イ 企画展示室を準常設展示室のような位置づけとし、通史に載らない神楽や人物等を展示するのが良い。
- ウ 企画展示室に間仕切りがあれば、壁の展示面積も増えてパネル展示の幅も広がる。

#### (2) 展示の考え方

- ア 通史展示は必要と思う。ただ、通史も切り口・視点によって内容が変わるので、詳細検討が必要である。
- イ 狭い展示室で浜田の全ての歴史を語るのは難しいため、企画展示で専門的な解説を補うのも良い。

#### (3) 展示の内容

- ア 出雲と対比した石見の特色を出したい。そうすれば、県内外の受けも良いと思う。常設展で、石見の中の浜田の特徴を示せば良いと思う。
- イ 浜田の歴史の特徴は、地理的にも石見の中心に位置することから政治の中心地であること。それに加えて交易の核となる港が付いていることである
- ウ 「物」で見せるものと「映像」で見せるものを区別して考える必要もある。
- エ 人物については、映像コンテンツでも解説できる。また、廊下を活用したパネル展示も考えられる。
- オ 人物を通して歴史を見ていくことは重要である。歴史的な事柄だけを取り上げるのは良くない。

カ 「石見神楽と風土」を常設展示の導入として象徴的に展示し、各セクションを展開させる流れは良いと思う。

キ 浜田の魅力として、海を挙げる人が多い。産業としては石見焼と石州瓦、伝統芸能としては石見神楽があり、お囃子の音が魅力。また文化勲章を受けている人も多いことも浜田の魅力であろう。

#### (4) 展示の手法

ア 展示手法に関しては、世界こども美術館に併設ということで子どもがターゲットとして考えられる。

イ 展示手法に関しては、子どもを対象とするなら、映像と体験が重要である。一方的な展示・情報発信は避けるべきである。

ウ マンガやゲームで学べる等のいろいろな展示手法を模索する必要がある。また、活用事業との絡みも考える必要がある。

エ 様々な資料等、展示の素材が多くあり、全てを展示するにはスペースが足りないため、スマホやタブレットを活用する必要がある。

オ 今後は特に SNS による情報拡散効果も考える必要がある。

#### (5) 学校利用等

ア 学校利用では教員の熱量も重要である。教員に対する研修等も、早い段階から実施したほうが良い。

イ 子どもたちは地域の人がどのような暮らしをしてきたかに興味を持っている。

ウ 子どもたちが疑問に感じたことに応えられることが重要である。子どもたちの疑問を大切にすることが必要である。

エ 学校との連携については協議が不可欠であり、十分な計画が必要である。